

環境安全衛生品質マネジメント

日本化薬グループは、「環境・安全・品質」をあらゆる経営課題に優先し、グループ全体で環境負荷低減に取り組んでいます。より詳細な情報はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.nipponkayaku.co.jp/csr/environment/>

アクションプラン 安全な職場環境を実現する

2014年度の目標 重大事故災害0件、休業災害0件
無傷害事故0件

評価



生産技術本部長メッセージ



生産技術本部長
大抜隆雄

日本化薬グループは化学技術を基盤として発展し、いまや多種多様な製品の開発・製造を行っています。市場の要求を満たすため、これまで長年にわたって培った技術や最新の知見を駆使して高品質な製品を安定供給するべく日々取り組んできました。

安全操業は、個々の従事者の自覚とそれを支えるシステムの充実が重要との認識に立ち、製造従事者の世代交

代および製造所のグローバル展開に際する安全操業体制の確立のため、教育やフォローアップに従来以上に力を入れています。CO₂排出削減、リサイクル率の向上、廃棄物低減などの環境対策については、規制への対応はもとより、将来の事業継続性を維持するためにも必要な地球環境の保全を目指し、製造工程や生産規模に適した技術的なベストミックスを確立すべく取り組んでいます。

今後もすべてのステークホルダーの満足を得るため、品質の維持向上とともにレスポンシブル・ケア活動を続けてまいります。

日本化薬グループの環境安全衛生

グループ各社が、「安全をすべてに優先させる」取り組みを共通で進め、日本国内の環境安全関連の法令遵守、環境・安全の事故災害未然防止だけでなく、海外現地の法令対応、グループ全体の環境・安全事故の未然防止を図ること、また、KAYAKU spiritの実現に向け、「環境と安全と品質に関する私たちの宣言」に沿って日本化薬グループ会社全員で活動をともにするため、2014年度に初めて日本化薬グループの環境安全衛生方針を掲げ取り組みました。

2015年度はこの主旨を継続し、さらに方針名称も含めてレスポンシブル・ケアの精神を反映させた次の方針をグループ全体で確認しました。

日本化薬グループ 2015年度レスポンシブル・ケア（環境安全衛生）方針

レスポンシブル・ケア精神及び日本化薬グループの「環境と安全と品質に関する私たちの宣言」に沿って日本化薬グループ全員で取り組む中で、「安全をすべてに優先させる」ことを基本に活動を行う。

①「事故災害ゼロ」へ向けた取り組みの推進

リスクアセスメント、KYT・KYK（危険予知訓練・活動）等の他、各国、各社の工夫を凝らした安全衛生活動を進め、事故災害の未然防止を図る

②地球温暖化防止と環境負荷低減に向けた取り組みの推進

各国、各社にあった目標を掲げ、環境にやさしい会社を目指す

③化学物質管理の充実

SDSの活用、GHS対応等により化学物質の危険有害性を正しく把握し、適正な管理を推進する

環境・安全・品質に対する取り組み

環境安全衛生の強化取り組みは、事故災害の未然防止対応、環境目標の達成、自然災害への事前対応、廃水処理技術の開発と向上推進、省エネルギー活動、健康づくりなどです。さらに、ここ数年の化学企業の大きな事故災害に鑑み、安全教育体系の整備を図り、全社統一の安全教育を実施するとともに、非常作業を含む潜在リスクの徹底的洗い出しにより事故災害の未然防止に取り組まれました。

品質では、品質管理技術力の向上を目指した教育として、統計解析手法の実践的な研修「Field Data解析～おもしろ体得塾～」の実施や外部講習への派遣、「内部監査員教育」を実施しました。この他に「品質改善事例集」を発行し、品質改善手法の普及を進めました。また、顧客苦情および品質工程異常の低減の取り組みとして、再発防止策の強化のために「なぜなぜ分析推進チーム」を結成し、当社版「なぜなぜ分析マニュアル」を作成し、これをもとに各職場で展開しました。



5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）教育研修

エネルギー・マテリアル・バランス

2020年度までの中期環境目標達成に向けた取り組みを実施しています。報告対象組織は日本化薬のみです。

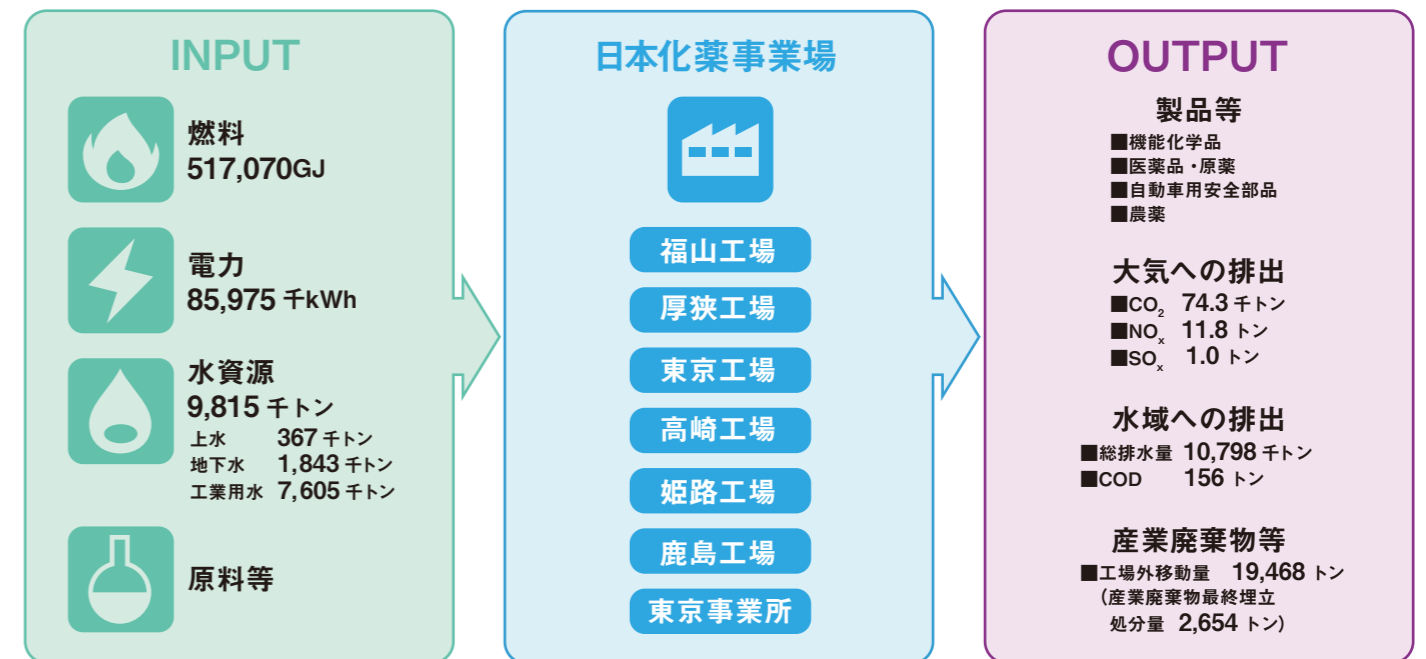
アクションプラン 化学物質排出量の削減
廃棄物の発生量の抑制
地球温暖化を防止

2014年度の目標 中期環境目標の実現

評価



事業活動と環境負荷の全体像



中期環境目標（2011～2020年度）

分野	項目	2020年度目標値	2014年度実績	内容
化学物質排出量削減	VOC ^{*1} 排出量	45トン以下	49.2トン	前年度と比較して9.7%減となりました。
	COD ^{*2} 排出量	180トン以下	155.9 トン	前年度と比較して53.7%増となりました。今年度、福山工場の製品構成が変わって、COD 負荷の高い製品を多く製造したためです。
地球温暖化防止	エネルギー起源CO ₂ 排出量 ^{*3} （生産部門+業務部門）	3.8%以上削減	74.3千トン	前年度と比較して2.2%減となっています。2005年度比では10.0%減となっています。
	廃棄物発生量	30,000トン以下	21,830トン	前年度と比較して5.9%減となりました。
廃棄物削減	リサイクル率	70%以上	73.5%	前年度と比較して1.8%増となりました。前年度に引続きリサイクル率の高い産業廃棄物への排出を増やしています。
	ゼロエミッション率 ^{*4}	3%以下	12.2%	前年度と同じ比率となり目標と大きく乖離をしています。今年度も福山工場でのスポット的な廃液汚泥処理が発生したためです。

※1【VOC】 Volatile Organic Compounds（揮発性有機化学物質）。ただし、集計には政令で報告対象となっている化学物質以外に反応で副生する化学物質等、大気中に放出されるすべての化学物質を含めて管理しています。

※2【COD】 Chemical Oxygen Demand（化学的酸素要求量）。水中の物質を酸化するために必要とする酸素量で、代表的な水質の指標のひとつ。

※3【エネルギー起源CO₂排出量】 2005年度（82.6千トン）を基準としています。

※4【ゼロエミッション率】 日本化薬では廃棄物発生量全体に対する内部および外部埋立量の割合として定義しています。

環境・安全・品質に関する 日本化薬グループ会社の活動事例

環境安全、安全衛生の確保および品質保証の維持・向上に努めるため、組織的な活動を行っています。

化薬(湖州)安全器材有限公司

自動車業界向け品質マネジメント規格「ISO9001-TS16949」認証を取得しました

化薬(湖州)安全器材有限公司(KSH)は、2006年に設立した自動車安全部品を製造している中国にある日本化薬グループの会社です。

KSHでは、人の命を預かる部品を製造しているという認識のもと品質をさらに安定させ、顧客の要求事項を満たすため2014年5月に「TS16949」認証を取得しました。TS16949とは、ISO9001中の自動車部品のグローバル調達基準を満たす自動車業界向けの品質マネジメントシステム規格です。

KSHでは、2011年からシステムについての社内勉強会(全従業員対象)を始めました。2年間の準備期間を経て、2013年5月か

ら審査機関による教育を開始し、32人の内部審査員を育成しました。そして、2013年12月の第1回目監査、2014年3月の最終監査を経て、2014年5月無事認証取得に至りました。監査の中では、指摘事項・注意事項があり、最終監査は3日間にわたる厳しいものでしたが、全社員の「必ずTS認証を取る」という強い決意により、達成できました。

これにより、自動車安全部品製造会



ISO9001-TS16949

社として、世界で競争する基盤づくりができスタート地点に立ちました。今後は、さらに「いい会社、強い会社」を目指し、ISO14001(環境マネジメントシステム)、OHSAS 18001(労働安全衛生マネジメントシステム)の取得を目指します。



ISOの監査風景

無錫先進化薬化工有限公司

職業病予防知識普及のための審査会で優秀団体賞を獲得しました

中国無錫にある無錫先進化薬化工有限公司(WAC)は、染料の製造・販売を行っています。

WACは、2015年1月、国家安全監管総局と全国総工会が主催した全国職業病防治知識の審査会で優秀団体賞を受賞しました。この審査会は、全国102,293団体、800万人の従業員参加中わずか350団体が受賞し、受賞団体のほとんどは、地方政府の労働安全関連部署で、無錫市の2団体中一般企業での受賞はWACのみでした。

審査会では、国が定める職業病予防の要求事項に関する実施状況の報告書の審査と国が準備した職業病予防知識に関する設問

に対して、インターネットや書面で、従業員による回答結果をもとに審査されました。

WACの活動は、日頃から職業病要因の洗い出しと申告、環境測定による実態把握と報告、設備の適正化による予防強化、危険要因毎の従業員への報告、劇毒品の管理強化を行い、そして、従業員の健康診断を適切に実施しており、これらの努力が評価された結果です。

今後も環境に優しいだけでなく、働く従業員の労働環境にも優しい会社を目指し、改善活動を継続していきます。



審査会での優秀団体賞獲得